



企業訪問で、雌牛に稲わらを与える八戸学院大の学生＝八戸市のイチカワファーム

# 地場産品 PR任せて

八学大生が企業と連携

## ブランド牛 販路拡大探る

ハ  
戸

八戸市の八戸学院大学の学生が地元企業と協力し、八戸圏域の地場産品の販路開拓を目指すプロジェクトに取り組んでいる。マーケティングや消費動向などを学びながら、会員制交流サイト(SNS)を活用した地域の魅力発信や、販路拡大に向けた地場産品のプレゼンテーションなどを行う。

地域活性化と人材育成を目的に、同大と市内7企業などが昨年10月に設立した「八戸圏域・地域グローバルイノベーション」

推進協議会」がプロジェクトを主導する。取り組みを通じ学生が地元企業について学ぶことで、定住を促す狙いもある。

本年度は、地元企業への訪問や、営業技術などを学ぶワークショップ、東京都千代田区の八戸都市圏交流プラザ「8base(エイトベース)」での実演販売などを行う予定。

13日は最初の学習として企業訪問が行われ、同大地域経営学部2年の学生8人が、ブランド牛「毬姫牛」を生産するイチカワファームを訪問した。牛舎を見学したり、牛に稲わらを与えるなどし、毬姫牛の生産方法や味の特徴、畜産業の魅力を学んだ。

工藤拓人さん(19)は「普段何げなく食べている牛肉は、手間暇かけて生産されていると実感した」、住榮来輝さん(19)は「育てる環境や与える餌で肉の味が変わると知った。脂がさっぱりしていて、甘みがある毬姫牛のおいしさを県内外の人にPRしたい」と話した。

協議会会長で同大の堤静子教授は「学生の高い発信力を活用し、販路拡大に向けしっかりと結果を出したい。プロジェクトを通じ、学生が地元で働くことへの魅力に触れることで、卒業後も八戸に残ってくればうれしい」と語った。プロジェクトは来年度以降も継続し、地元企業とのコラボレーション商品の開発も計画している。(工藤慎子)